

翠風園 ひかり通信

第11号



発行月： 平成28年12月
制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会
デイサービスセンター翠風園
ヘルパーステーション翠風園
グループホーム 翠風園
理事長 野水 清志

所在地： 〒950-1236
新潟市南区高井東2丁目13番33号
連絡先： 025-362-7600
ホームページ：<http://www.suifuuen.jp/>



プリンセチアローザ
(花言葉) 思いやり

ご挨拶

グループホーム
計画作成担当者 佐藤 菊美



今年の春に綺麗な花を咲かせた翠風園の桜も、秋には葉が紅葉し、寒さが増した現在では落葉しながら、季節の移り変わりを教えてくれます。グループホーム翠風園は今年、開設十一年を迎える事が出来ました。利用者のご家族や地域の方々、また、ご支援を下さる沢山の方々のお蔭と心より感謝致します。

私は翠風園に勤め、一年の目標を立てる事の大切さを、初めて教えて戴きました。まず最初に考えたものは、「笑顔で挨拶」でした。「笑顔」は、生涯変わらない私のモットーです。介護の仕事に就いてから、特に心からの笑顔で接する事が大切だと感じています。翠風園で、地球様や水、土、火など、何に対しても感謝する事を教えて戴きました。感謝の想いが増えた事により、私の笑顔もパワーアップしたように思います。私が大切にしている笑顔が生かせる事は、私の喜びです。皆様の笑顔が見たいから、尚一層「笑顔」を大切にしたいと思えます。

また、働き始めてから、グループホームは新しい家族の形ではないかと、思う様になりました。各ユニット九名ずつ入居されていますが、寝食を共にする事で利用者様同士が互いに思い遣り、支え合っている感じがします。お一人おひとりがそれぞれの役割を担っていて、また職員も皆様の娘や息子の様に受け入れて戴いています。相手を思い遣る心、支え合う心が、「新しい家族の形」を作っているのではないかと思っています。私は利用者様の新しい家族の一員として、自分の役割を精一杯担って参りたいと思えます。

入居当日の「初めまして」から、何かの理由でお別れの日が来るまで、「笑顔」いっぱい接したいと思えます。

今後とも、変わらぬご支援ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

生きている事への感謝祭

文・行事担当

介護職員 眞保佳代



平成二十八年八月四日から十日に、デイサービスセンターとグループホーム合同で「生きている事への感謝祭」という行事を執り行いました。

一昨年は「生まれて来た事への感謝祭」、昨年は「育てて戴いた事への感謝祭」でしたが、今年のテーマを全ての事業所で話し合いました。

多くの意見が出た中で、職員教育係の山口理事にどのテーマが良いかお伺いした処、「【生きる】という事について、普段は何も考えずに、生きている方もいらつしやると思いますので、真剣に考えてみると良いかもしれませんね」と助言を戴き、今年は「生きている事への感謝祭」に決まりました。

また、私は感謝祭で使う、映像の文章を考える事になっていました。どう書いて良いか全く分からず悩んでいたのですが、最初に書いた文章を施設長から見て戴いた時、「ピンと来るものがあります。今迄教えてもらった言葉を並べるより、自分の実感として捉えた事を書くが良いですよ」とアドバイスを戴いて、自分自身が実感した内容を考えました。

*当日、映像と共に流しました文章をご紹介致します。

豊かな太陽の恵みを受けて、今日も一日が始まります。私達は今迄、毎日を当たり前の様に過ごして来ましたが、実は奇跡の連続だったのだと気が付きました。

ここ地球様の元に、親から産んで戴き、

酸素という目に見えない空気を吸い、清らかな水や、大地の恵みの食べ物を頂き、

他の動植物の命をエネルギーに代えて生きています。

私達は、一人では生きられません。

周りを見渡せば、ありとあらゆる万物によって、生かされている事を実感します。

人としての生き方も分からず、

万物との調和の仕方も知らなかった私達に人の生き方を教え、

導いて下さる方々がおられました。

私達はそのお蔭で、人として生まれ、生きる事の意味を知りました。

全ての命を祝福をもって生み出された、偉大なる存在を知りました。

私達が生きる事は、様々な経験を積みながら、その偉大なる存在に向かい、

進化と成長を続ける事だと知りました。偉大なる存在がお創り下さった大自然は、

いつも私達の生きるお手本でした。

宇宙の摂理に従い、命の循環に沿って、そこにあるだけで、厳しきや激しき、



施設長からは、その後、何度も私の言葉の遣い方や、表現の仕方が抽象的で分かり難い所を、適切な言葉に直して戴きました。私はその過程が嬉しくてたまりませんでした。

また、直して戴いた文章を自分が最初に書いた文章と比較してみました。私は目の前に見える視野の狭い感謝しか思いつきませんでした。施設長は、偉大なる存在、宇宙全体も視野に入れて生かして戴いている感謝を書かれており、自分自身がその中身を確りと会得していかなければ、文章にする事など出来ないのだと思いました。

この事を山口理事にお話すると、「『施設長、脱帽しました。素晴らしい表現なので、この文章を戴きたいです』と言えば良いのですよ。自分が敵わないと思つたならば、その文章を戴いて、意識の高い人の考えを目指せば良いのです」と教えて下さいました。

このお言葉をお聞きして、ほっとすると共に「そうか！ 目指せば良いのだ」と、有り難い気持ちでいっぱいになりました。

私はこの度、初めて行事担当を担わせて戴きましたが、言葉では言い尽くせない程の感謝がありました。施設長、先輩方の考え方を習い、少しでも近づけるように努力して行きたいと思えます。

優しさや安らぎの振動を生み出し、何も求めず、与え続けておられました。そのお姿は、何と美しく、素晴らしいのでしよう。その様な生き方をしたい、目指したいと、心から思う様になりました。

人の心が成長し、進化する為には、楽しい、嬉しいなど、幸せに感じる想いと、悲しい、苦しいなど、辛く感じる想いと、両方の感情が必要であり、両方あるからこそ尊く、素晴らしい人生になるのだと気が付きました。

生きるとは、身の周りに起こる出来事を

全部受け止め、

喜びも苦しみも悲しみも辛さも、様々な経験をし、心に色んな想いを積み重ねて、

その一つ一つに心からの「ありがとう」を、見つけて行く事ではないでしょうか。

そして、この様な想いや経験は

今ある命を、生きて行く事でしか味わえません。

私にしか味わえない人生を、

生きる希望と喜びをもって、生きて行きます。

今、生きている事に感謝します。

私達を生かして下さる、全ての存在に感謝します。楽しい事、辛い事、どちらの経験にも感謝します。





デイサービスセンター、グループホームの利用者様が考えて下さいました「生きていく事への感謝」の言葉をいくつかご紹介したいと思います。

「昔、苦勞を沢山して来たけれど、今、生きていて幸せだ」と仰る方が多く、ご家族の方や周りの方への感謝を述べて下さいました。

中には「恩返しをしたい」とお話をして下さいる利用者様もいらっしやり、その深くて広いお心に、胸が熱くなりました。

私達職員も、皆様のお考えを聞き、今の時を皆様と一緒に生きている有り難さを感じました。

これからも利用者の皆様のお姿を見習って行きたいと思えます。



戦争時代は食べ物に苦勞しましたが、新潟に生まれて良かったと思っています。

新潟は穏やかで、暮らしやすいです。戦争の時代から比べれば、食べ物も豊富で生活も豊かです。長生きをしたお蔭で翠風園にご縁があり、元気で明るく、楽しく生きていられる事が、本当に有り難いと思えます。

デイサービスセンター 九十四歳 女性利用者様

この歳になっても、家族みんなが私の世話をしてくれて、本当に有り難いです。

こうして翠風園で友達に会えて、どれだけ健康にいられる事が有り難い事なのだろうと感じています。病氣をして翠風園に来られなかった事がありましたが、来られない日があったからこそ、なおさら有り難いと思っています。

デイサービスセンター 八十五歳 女性利用者様

脳内出血を経験しましたが、今を生き、生かされている事が、有り難いです。

ニュースをみると事故や事件が毎日起きていて、胸が苦しくなります。

亡き主人の写真に、いつも子供達の名前を言って「平穏無事でいてほしい」とお願いしています。

兄が会いに来てくれたり、お婿さんからも電話をもらうと、私を氣遣ってくれている言葉が、嬉しくて元氣が出ます。このように、周りの皆さんに支えられて生かしていただいています。そして、恩返しをして行きたいと思えます。

デイサービスセンター 七十七歳 女性利用者様



今までは百姓の仕事をして来て、その時期その時期に合わせて、田植えやわらを使った仕事など様々とお姑さんに習い、負けないように頑張りました。

今思うと、難儀な仕事だったと思います。ここまで長生きして生かしてもらえたのは、周りの方々のお蔭だと思い、幸せに暮らしています。

デイサービスセンター 八十一歳 女性利用者様

最初の主人は、戦争に出兵して、帰って来たものは名前だけが書かれた中身の無い箱のみでした。

その後、亡くなった主人の弟と再婚して四人の子供に恵まれましたが、一番下の息子が小学生になる前に病気で亡くなり、辛くて悲しい想いをしました。

今の主人とは、七十年来の付き合いです。一緒に農業をして、今は親子三代、孫まで手伝ってくれています。

ここまで生きて来て、辛い事や悲しい事もありましたが、家族にも恵まれて、生きていて良かったと思います。

デイサービスセンター 九十三歳 女性利用者様

あと一年と四カ月で百歳！
こんな良いところで楽しく穏やかに過ごせる人生に、喜びと幸せを感じます。

グループホーム 九十八歳 女性利用者様

皆さんと一緒にゲームや体操をしたり、また、地球様に「有り難う」と感謝したりして暮らせる事に感謝します。

グループホーム 八十四歳 女性利用者様

ここに来て感謝しています。

自分に負けてはいけない、それが生きている事です。

グループホーム 八十六歳 女性利用者様

今まで、楽しく人生を送れた事に感謝です。

グループホーム 八十七歳 女性利用者様



次に、職員が考えました「生きている事への感謝」の文章を紹介したいと思います。

生きている事への感謝祭

事務長

酒井 義喜

今年も翠風園では恒例となりました感謝祭を、利用者様と共に執り行えます事に心より感謝申し上げます。今まで数多くの感謝祭を行って参りましたが、私にとりまして日頃当たり前のように過ごし感謝を忘れていた事に意識を向け、全てが大切な存在であることに気付かせて戴ける、大切な行事となっております。

今年のテーマは「生きている事への感謝」となりました。生きるとはどういう事なのか、如何に生きるべきかを改めて考える機会となりました。

今年の四月に、父が八十五歳の生涯を終えました。長年育てて戴いた父の死を目の当たりにし、様々な想いが巡る中、当たり前のことではあります。私は肉体を纏って生まれた人間は、この世での学びを終え、いつか必ずこの世を卒業する時が訪れる事を自覚させられました。また、葬儀を通じ、父は多くの方々から生前お世話になり、支えて戴きながら生きてきた事を改めて知りました。

そして、私自身もいつか死を迎えるのだと自覚すると同時に、私は今生きているという現実が目が向き、様々な感謝の想いが湧き上がってきました。



地球が存在し、大いなる自然界に生かされているからこそ、人間は呼吸をし、飲食をし、生活を営む事が出来ていました。また、国、会社、利用者様を始め先の方々、数えきれない程の身の回りの方から、恩恵を受け、育てて戴き、助けて戴きながら今を生きている事が出来ていました。様々な要素、奇跡的な巡り合わせが重なった結果、私はこうして生きる事が出来ました。

日本人は、古来より「心構え」や「覚悟」という言葉を大事にしてきました。生きている間に起こる全てに対して、「自分が責任を取る」「全てを受け入れる」という姿勢を貫いてきたからだと思います。

武士道で「生きることは死ぬこと」と言いますが、あらゆる事態を想定して、いつ死んでもいいように普段から身を綺麗にし、「覚悟」をもって生き抜く事を教えて下さっていると思います。その様に一日一日を本気で真剣に生きなければと、今切実に感じます。

そして生きるとは、内に宿る霊が願い求めた全ての課題を学び、進化向上する事だと教えて戴いております。嬉しいことも、楽しいことも、悲しいことも、辛いことも、存分に味わい、全てに心から有難うと思えるまで学び、また学び得た事を身の回りに伝え育み、後世に繋いで参りたいと思います。

最後になりますが、生きている事への感謝の想いを、万物に捧げたいと思います。





生きていく事への感謝祭

デイサービスセンター介護職員

小林 清勝

今年の感謝が「生きていく事への感謝」と決まり、色々考えました。

ここ翠風園では二年に渡り、初めが「生まれてきた事への感謝」、昨年が「育てて戴いた事への感謝」と行って来ました。

今、私には今年を含め、三年間の思いが有ります。三年前の感謝祭の頃、私は生まれてきた意味ばかり考えていました。何も出来ずただ毎日を過ごすだけ。自分自身が嫌いでしたし、何で生まれてきたのか考える日々でした。自分が居なくても世界は回るし、自分はいらないと思っていました。

私は、この一年弱で命の大切さを知る経験をしました。昨年私は結婚しました。結婚後、直ぐに私の父親が倒れました。今は無事に元気に過ごしていますが、その当時、家族から連絡を受けて病院で父親を見た時、愕然とし、医者より「もう、今までのように生活は出来ないかもしれないので覚悟して下さい」と言われました。私にとっては偉大な父親の痛ましい姿を見て、泣いてはいけなさと分かってはいるけれど、涙が出て来ました。迷惑や心配ばかり掛けて、やっとこれから孝行して行こうと思っていた矢先だったので、打ちのめされる思いでした。代われるなら代わりたいたまで思いました。



妻も結婚して間もなかったですし、心配ばかり掛けていたと思います。父親が生きていてくれて、本当に良かったです。

父親が退院して落ち着いた頃、妻の妊娠が分かりました。きっと父親に孫の顔を見せる為に父親は生かされたんだと感じました。

けれど、今度は祖母が倒れました。祖母は私の介護への道を示した人でした。私の家は共働きで忙しかった為、小さい頃は祖母に見てもらっていました。きっと父親の時と同じで大丈夫と思っていました。ですが、家族の居る目の前で祖母は旅立ちました。辛かったですし、祖母の「父親（息子）の代わりに私が…」と言った言葉が印象に残っています。

そして、先月に子供が産まれました。難産でしたが、妻も子供もよく頑張ってくれました。子供が産まれた日は、妻の祖父の命日でした。

この一年で生きて行く事を考えさせられました。祖母より、「誰かが旅立つと代わりに生まれてくる」と教えられました。旅立つ命と生まれ来る命。命のバトンを受け継ぎ、命を繋ぐ。きっとその為に生きているのだと思います。生きていられたから、妻や子供に会えた。生きて来られて良かったです。子供にもそれを教えて行きたいと思います。



ヘルパーステーション

障害者支援事業を

開始しました



訪問介護員 佐瀬 友子 させ

ヘルパーステーションでは、七月一日より、障害者支援事業をスタート致しました。今迄のヘルパーステーションでは、介護保険に該当される利用者様のお宅に訪問し、おむつ交換や、買い物、調理といった日々の生活のお手伝いをしてきました。この度、新たに障害者支援の事業を始める認可を戴く事が出来、スタートした次第です。

施設長が新しく事業を始めたいと区役所に伺った際、南区役所の方が次の様に仰ったそうです。「南区の訪問介護事業所の中で障害の事業をしている所が少ない為、現在利用したい方はいらっしゃっても、訪問に入れる事業所が足りていないのが現状です。そこで、隣の西区等から、訪問して貰っています」と仰り、区役所の担当者の方は私達の申し出を大変喜んで下さったそうです。

しかし、それだけ、障害者福祉に対して壁があるという事も事実でした。障害と言っても、精神障害、知的障害、身体障害など、介護保険の分野とは違う所も多く、どの様な方のお宅に訪問する事になるのか分からない為、ヘルパーの皆さんはどの様な反応をされるだろうか、少し不安もありました。そこで、毎週行っているヘルパーのミーティングで、障害者支援事業の説明をした処、思いがけない話を聴く事が出来ました。

・今迄の介護の仕事は、苦勞もありますが、とても遣り甲斐のある仕事で、この仕事をして本当に良かったと思っています。今度は、障害者支援事業が始まるといふ事で、どの様な仕事になるか分かりませんが、自分のスキルアップが出来ると思うと嬉しいです。

新しい仕事に繋いで下さり、有り難うございます！

・私は仕事を始める前、福祉の学校に行っていたのですが、将来は障害福祉の仕事に進もうと思いい、実習先は障害者の福祉施設に行かせて貰ったりしていました。最終的には介護の方に進んだのですが、今度、翠風園で障害者福祉の仕事が始まると聴いて、夢が叶った様な、有り難い気持ちです！

新しい事や、難しい仕事に挑戦するとなると、反対するヘルパーもいるかなとも思いましたが、そんな事は無く、どんな仕事があるか分からないけれど問題もみんな協力して乗り越えて行ける！ という確信があり、また新しい仕事を通して技術力を高めるぞ！ という熱い想いに一人ひとりが燃えています。

この様に、皆が想いを一つにして仕事に向かう事が出来ますのも、様々な利用者様の問題に向き合い、話し合いを重ね、実践しながら解決してきた今迄の実績や、ヘルパー一人ひとりの想いに向き合い、導き育てて下さいました施設長、南主任のお蔭です。この様な有り難い職場で仕事が出来て本当に幸せです。

早速、七月一日の開業と同時に、お二人の利用者の方をご紹介戴き、現在は五名の利用者様が登録して下さいます。

「障害福祉サービスを始めて」

訪問介護員 捧 彰子



今年の七月にデイサービスから異動となりました、捧彰子です。デイサービスでは十三年間勤務させて戴きましたが、ヘルパーの仕事は初めてで、主任を始め先輩ヘルパーの皆さんから、一から指導して戴いています。利用者様のお宅に、先輩と一緒に初めて訪問した際、利用者様から「今日も貴女達のお蔭で生きられます。有り難う」と、声を掛けて戴きました。私はその心のこもったお言葉に胸がいっぱいになり、利用者様への感謝を忘れずに仕事をさせて戴こうと、決意を新たに致しました。そして、利用者の皆様は、初対面の私を、「翠風園のヘルパーさんなら安心です。良く来て下さいましたね」と歓迎して下さいました。こんなにも有り難い事はありません。これは、先輩の皆さんが、利用者様との信頼を築いて下さったからだ、先輩方に感謝しています。ヘルパーの仕事を始め、(新米の私を、家に入れて戴ける事がまず有り難い。そして仕事をさせて戴ける事が、なお有り難い)と、毎日感謝の想いが湧き上がってきます。習う気持ちと感謝の気持ちを持って、励んで参りたいと思います。皆様、ご指導を宜しくお願い致します。

障害福祉サービスは、家事援助、病院への通院介助、身体介護、移動支援など多岐にわたります。

その中で、障害福祉サービスをご利用の、六十代のA様がいらっしゃいます。家事援助や病院への通院介

助を行っていますが、通院の為に一緒にバスに乗りながら、A様は色々な話を聴かせて下さいます。

初めてA様にお会いした日、「捧さん、私は百歳まで元気で生きたいので、宜しく願います。ただ長生きではなく、元気で百歳！ を目標にしています」と、力強く仰いました。

A様は常日頃、食事に気を付けておられ、運動にも取り組み、いつもハツラツとしていらっしゃいます。或る日、その秘訣をお訊きしてみました。すると、「私は常に目標を立てながら生活しています。仕事をしていた時も、目標が達成すると、またその次を立てるんです。目標があると楽しくなるものですよ」と話して下さいました。続けて、「人との繋がりが何よりの財産です。助けたり、助けられたり色々ありました。人とのご縁は大切です。今回翠風園さんにご縁があつて良かったです。自分の出来ない処を手伝ってもらつて、目標を達成したいと思つています。宜しく願います」と仰いました。私はA様のお話に感動しました。

訪問介護の仕事はまだまだ始まったばかりですが、利用者様のお気持ちに寄り添い、真心を込めてお手伝いさせて戴きたいと思つています。どうぞ宜しく願います。



チームワークも抜群です！
(左は佐瀬、右は捧)

グループホーム

九十九歳のお二人の利用者様

グループホームは、もえぎ はなあさぎ 萌木と花浅季の二つのユニットがあり、それぞれ九名の利用者様が入居されています。
現在、グループホームでは、九十九歳の利用者様が二名いらっしゃいます。管理者の杉澤さんから、その利用者様の暮らし方、考え方が素晴らしいとお聞きし、この度、取材をさせて頂きました。

九十九歳 渋川キミエ様にお聞きしました！

聞き取り 居室担当（萌木）あいだ 間 稜子

職員 「毎日続けている事はありますか？」

渋川様 「本を読んだり、新聞を読む事です」

職員 「生きがいや目標としているものはありますか？」

渋川様 「一生懸命に遣り過ぎないことです」

職員 「今迄の人生で一番苦労された事を教えて下さい」

渋川様 「戦時中と家庭の事です」

職員 「現在の暮らしで、一番の楽しみは何ですか？」

渋川様 「勉強する事です。後は、季節の花や窓越しで見える景色が大好きです」



職員 「施設や職員への要望などありますか？」

渋川様 「新聞など、新しいニュースがあれば教えて欲しいです」

以上の様に答えて下さいました。渋川様、有り難うございました。

渋川様はどんな事でも、「勉強になります」と、感心されます。更に、「もう一步深く勉強しておけば良かった」と言われて、常に勉強されているお姿には頭が下がります。

そして、毎日身だしなみを整えて過ごされており、品性をお持ちでいらっしゃいます。職員達にも「いつも綺麗にしていますね。いつまでもその様にして下さいね」と声を掛けて下さいます。渋川様は、多くの職員に「あの方の様に歳を重ねて行きたい」と思わせて下さる方で、私達職員のお手本です。渋川様、これからもご指導を宜しくお願い致します。



九十九歳 山田希美江様にお聞きしました!

聞き取り 居室担当 (花浅季) 寺崎 和美

職員 「毎日続けている事はありますか?」

山田様 「毎日、日記を書く事です。日記は自分の歴史です。また、今日は何日かを確認しながら、新聞をじっくり読む事です」

*入居してから日記を書き始めたそうです。

現在は、なんと四百二十八冊目になりました!

職員 「生きがいや目標としているものはありますか?」

山田様 「元気で長生きする事です!」

職員 「今迄の人生で、一番苦勞された事を教えて下さい」

山田様 「三人の子供達を一人前に育てる事」

職員 「現在の暮らしで、一番の楽しみは何ですか?」

山田様 「数年前までは、短歌を作っていました。今は、皆さんと仲良く暮らせる事。今が一番の幸せです」

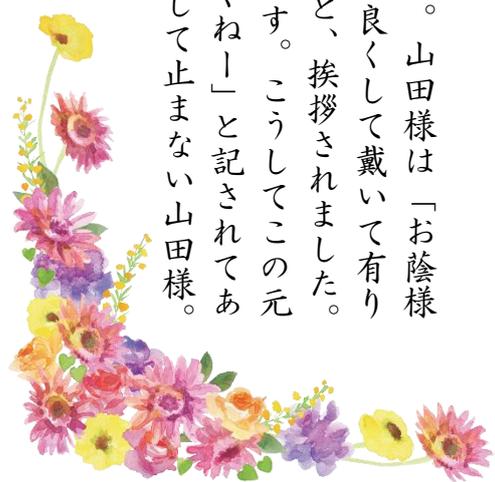
職員 「施設や職員への要望などありますか?」

山田様 「お世話になるばかりで、これ以上の要望はありません。グループホームでの暮らしに満足しています」

以上の様に答えて下さいました。山田様、有り難うございました。



また、先日は誕生日会を行いました。山田様は「お陰様で九十九歳になりました。皆さん、仲良くして戴いて有り難うございます。毎日楽しいです!」と、挨拶されました。当日の日記には、「今日で九十九歳です。こうしてこの元氣。さあ、どんどん老いていく。宜しくね」と記されておりました。利用者様、職員みなが尊敬して止まない山田様。これからもご指導お願い致します。



職員紹介



今年子供が生まれ、お父さんになって益々張り切っています！



デイサービスセンター 小林清勝

デイサービスセンターに働かせて戴いて五年目に入ろうとしています。初めは何もわからなかった自分が、ここまでやって来られたのは、私の周りにおられる沢山の方々のお蔭だと感じています。感謝の想いです。利用者様お一人おひとりが笑顔で過ごされて心安らぐ様、心掛けています。皆様との日々を一日一日大切に、感謝の気持ちを忘れずに励んでいきます。

ヘルパーステーションで働かせて戴き三年目になりました。

「気付き」を大切に、利用者様、そして利用者様を支えるご家族に、適切な援助やお手伝いが出る様、心掛けています。

仕事を通じ、皆様の笑顔、温かいお言葉、有り難いご指導等が心に響き、心温まる感謝の気持ちで訪問させて戴いています。ヘルパーとして支えるつもりが、皆様から支えて戴いている…。まだまだ未熟者ですが、少しでもご恩返しが出る様、心より精一杯努めていきたいと思えます。

ヘルパーステーション 川本広美



川本さんは、何事にも感謝を見付ける達人です！

新しい事に挑戦するのが大好きなチャレンジャーです！



グループホーム萌木 角田美知子 かくだ

皆様の笑顔に元気を戴きながら、グループホーム翠風園にお世話になって早いもので八年になります。失敗と反省を繰り返す日々ですが、利用者の皆様から沢山の事を学ばせて戴き、とても感謝しております。これからは恩返しの気持ちで、翠風園が温かく笑いの絶えないホームになる様、努めていきたいと思えます。

